

博物館ニュース「SHÛ」 NO. 60

“SHÛ” News of Tamagawa University Museum of Education

2023年3月20日

玉川大學教育博物館



目次

展覧会への招待……………2  
博物館の教育活動……………3  
報告……………4  
資料をご寄贈いただきました……………5  
開館カレンダー・  
利用案内……………6

鈴木満《夕暮れの母子》

キャンバスに油彩 72.7×53.3 cm

〔1960～70年代〕鈴木達也氏寄贈

鈴木満は、1960年代から欧州の風景を背景に母子像を多く描きました。場面は秋から冬にかけての寒々とした時期で、黄昏時から未明までの暗い時間帯に限り、そこには必ず月を描いています。月と母子を描いた作品は、鈴木を代表するシリーズとして知られています。

## 展覧会への招待

### 鈴木満と青木純子・青木美知枝 三人展

—玉川学園7丁目のアトリエで制作活動を続けた作家たち—

当館では、2019年に玉川学園小学部の卒業生の鈴木達也氏から、叔父の画家・鈴木満氏とその夫人の青木純子氏、および夫人の妹の青木美知枝氏の洋画作品をご寄贈いただきました（以下3者の敬称略）。鈴木満は1948年に青木純子と結婚し、町田市玉川学園7丁目に住まいとアトリエを構えました。鈴木は玉川学園に住んで以降、画業の傍ら約17年にわたり、玉川大学出版部発行の書籍に挿絵を提供してきました。また、学内に飾られていた著名な教育者や思想家の肖像画も多数描いています。鈴木逝去後は青木美知枝が転居し、純子とともにアトリエで制作活動を行いました。このような縁もあることから、当館の美術資料コレクションの充実と展示や教育活動に活用してもらいたいという鈴木達也氏のご芳志により、3作家の作品を多数ご寄贈いただきました。

鈴木満（1913 - 1975）は静岡県田方郡中狩野村（現伊豆市）に生まれ、1928年に上京して太平洋画会研究所、太平洋美術学校で学びました。以後、太平洋画会と官展を中心に活躍し、戦後は示現会に設立会員として参加し、日展にも出品しました。主に人物画を描き、聖母子を思わせる女性と幼児の絵で知られています。

青木純子（1922 - 2016）は千葉県野田市に生まれ、太平洋美術学校で学びました。示現会や女流画家協会の創立に参加し、1970年代からは、人形をモチーフにした作品を多数描きました。

青木美知枝（1928 - 2014・本名節子）は、1951年東京美術学校を卒業し、安井曾太郎に学びました。静物画を得意とし、写実的でありながら、幻想的な雰囲気をもつ作品で高い評価を得ています。

展示では、寄贈していただいた作品を中心に、鈴木満の代表作なども加えて紹介いたします。同じアトリエで制作活動をした画家三者三様の絵画表現をご堪能いただければ幸いです。皆様のご来館をお待ちいたしております。



鈴木満《玉葱と女》  
キャンバスに油彩 1953年



青木純子《遊》  
キャンバスに油彩 1992年



青木美知枝《静物》  
キャンバスに油彩 1987年

◆会期 2023年10月23日(月)～12月17日(日)

◆会場 玉川大学教育博物館第2展示室 入館無料 ◆主催 玉川大学教育博物館

## 博物館の教育活動

### 企画展示を活用した大学教育活動

玉川大学は、文部科学省令が定める学芸員資格取得に必要な博物館に関する科目を開講しています。当館はこれらの科目を履修するための学びの場としても活用されています。

2022年11月25日には全学US科目「博物館資料論」の受講生19名が、12月7日は「博物館経営論」の受講生23名が来館し、2022年度企画展「先史・古代のアジアのやきもの－戸田コレクションの土器・陶磁器－」及び「登録有形文化財登録記念展示 外地教科書」の見学を行いました。

「博物館資料論」の見学授業では、本学で考古学を講じられた故戸田哲也氏のコレクションが寄贈された経緯や、当館の所蔵資料である外地教科書コレクションが国の登録有形文化財に登録されたこと等の説明を受けながら、展示を見学しました。また、実物資料の展示以外にも、教科書のような冊子媒体は、デジタル化をおこなったうえで、画像表示装置を用いれば全頁を公開することが出来ることや、博物館の所蔵資料の公開方法には実物資料の展示以外にも、図録、解説リーフレット、資料目録等があることを学びました。これらの内容は「博物館資料論」の授業でおさえるべき内容であり、この授業のシラバスとも適合しています。

「博物館経営論」の見学授業では、事前に各展示の概要と施設・設備の特色などについての解説を受けたうえで、展示の見学をおこないました。見学の際は、博物館経営論の視点から、教育博物館の展示や施設・設備などを捉えたときに、どのような問題があり、それらをどのように改善すれば、よりよい博物館にすることができるのかを検討し、各自の考えを回答するアンケートを課題として実施しました。

「百聞は一見に如かず」という諺があるように、五感を通した学修はとても重要です。その意味でも博物館を用いた様々な教育活動を今後も開発していく必要があります。



「博物館資料論」授業風景

# 報 告

## 企画展の開催

2022年10月24日から2023年1月15日まで、企画展「先史・古代のアジアのやきもの―戸田コレクションの土器・陶磁器―」と、同時開催の「登録有形文化財登録記念展示 外地教科書」を開催しました。



「先史・古代のアジアのやきもの」展会場風景

本学卒業生の戸田哲也氏から、収集された中国の先史時代や漢代を中心とする時期の土器・陶磁器、タイの土器のコレクション78点をご寄贈いただき、そのうち69点を展示しました。また、比較のために、同時期の日本の縄文土器も数点展示しました。会場の最後に資料寄贈後に逝去された戸田氏を紹介する小コーナーを設け、来館者に戸田氏の人となりを知っていただけるようにしました。

戸田氏のご遺族や、戸田氏が創業し、企画展開催にご協力をいただいた株式会社玉川文化財研究所の関係者の皆様にもご覧いただき、大変喜んでいただきました。

やきもの展と同じ展示室の一角を使用して、外地教科書展を開催しました。国の登録有形文化財となった、日本統治下の台湾や朝鮮半島等で発行された教科書を中心に、登録証の原本、関連資料として当時の現地での学校分布図や、学校の風景写真の絵葉書の画像を、拡大したパネル等も展示しました。

感染症対策のため、前日までの事前予約制での公開となり、見学者の方々にはご不便を

おかけしました。また、ギャラリートークなどのイベントは行うことができませんでしたが、会期中55開館日で、1,166名にお越しいただきました。



「外地教科書」展会場風景

## 通信教育課程博物館実習

2023年2月6日から11日まで、本学通信教育課程の2月学芸員スクーリングで、博物館実習が開講されました。合計46名の実習生が3組に分かれ、当館スタッフ及び学外の博物館で学芸員として活躍されている非常勤講師等の指導の下、実習を行いました。新型コロナウイルス感染症の流行が収まっていってはいませんが、感染症対策を厳重に施した上で、3年ぶりに全日程を対面形式による、本来の形で開講することができました。

普段は自宅において1人でテキスト等を



和装本の構造を学ぶ

通して学んでいる実習生たちも、同じ目的で学修する者同士で交流しながら、実技の習得に励んでいました。

### 展示室照明設備の交換工事

2023年2月から3月にかけて、展示室内の照明設備の改修工事を実施しました。これは、展示室の照明のうち、天井やケース内の調光可能な蛍光灯を、LEDに交換するものです。その間休館とし、展示物をすべて撤去した上で、工事を行いました。

国内では、東日本大震災以降の節電対策としてLED照明が普及してきました。他にも環境面から、水銀のリスク削減が国際的に目指されています。蛍光灯には微量の水銀が使用されていますので、節電と水銀対策のため、全国的に蛍光灯からLED等の新しい照明への切り替えが進められ、それに伴い、蛍光灯のランプや器具の製造が縮小傾向にあります。博物館で使用されてきた蛍光管は、資料の劣化・褪色を防ぐため、紫外線が出るのを抑制する加工がされたものですが、その博物

館用の特殊な蛍光管も一部が生産終了となり、交換用のランプが入手できなくなっていました。これを契機に、当館もLED化に踏み切りました。

博物館の世界でも、照明をLED等に改修した館が増えてきましたが、博物館の照明は、ただ明かりがつけば良いではありません。資料保護の観点から、基準に従い照度の調節ができることや、資料に悪影響を及ぼす波長の光が出ないこと、美術品等の資料の色彩が本来の調子で見えるような光であることなど、より高性能なものが求められます。当館の新しい照明も、それらの点をよく踏まえて設計・施工してもらいました。

### 防災設備の点検

2月に入り、学内の各校舎と同様、当館内の防災設備の定期点検が、各専門業者の手で行われています。消火器、屋内消火栓、火災報知器、ハロンガス消火設備、救助袋（緊急脱出装置）など、万一の非常事態に、来館者とスタッフの安全を確保し、博物館の資料及び施設を守るための仕掛けが正常に作動し、適切に運用できるように備えています。



工事の様子

### 統計（2022年4月～9月）

開館日数 99日 入館者数 685名

#### 収集

〔資料〕	芸術	1件
〔図書〕	和書 456冊	洋書 0冊
〔定期刊行物〕	和雑誌	30冊
	洋雑誌	8冊

### 資料をご寄贈いただきました（敬称略 2022年9月～2023年1月）

東 愛子 芸術資料 一括

ありがとうございました

## 当館の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について

当館では、来館者の皆様およびスタッフの安全を確保するため、社会情勢を踏まえつつ、引き続き基本的な新型コロナウイルス感染症予防対策をとってまいります。詳細は当館ウェブサイトにてご確認ください。ご来館の皆様にもご理解とご協力のほど、お願い申し上げます。

## 2023年度上半期 開館カレンダー

2023年4月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

5月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

6月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

7月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

8月

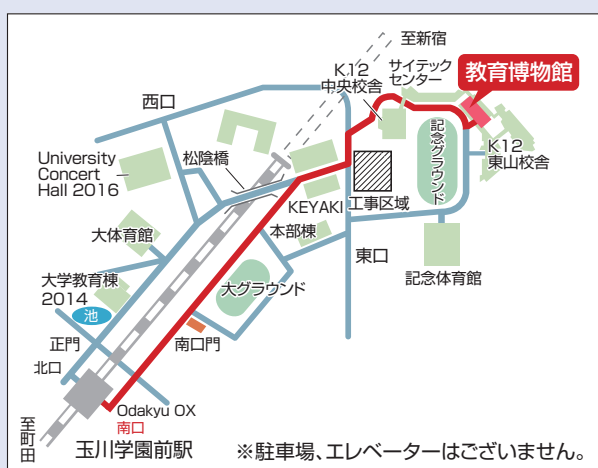
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

9月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

休館日  
 第1展示室  
 (日本教育史常設展示のみ公開)

※この予定は、大学授業・行事日程、社会情勢等により変更することがあります。詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。電話等にてお問い合わせください。



### 交通手段

小田急線「玉川学園前」駅下車 徒歩 15分  
 ※駅南口から線路沿いの道を新宿方向に進むと、玉川学園の校門(南口)に行き当たります。博物館にお越しの際は、校門の案内所にて入校手続きをお願いします。(来館者用駐車場はありません。お車での来館はご遠慮下さい。)

## 利用案内

**開館時間** 午前9時～午後5時  
 (入館は午後4時30分まで)  
**休館日** 日曜日・土曜日・祝休日・玉川大学の定める休日・展示替期間  
 (臨時に変更することがあります。詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。)  
**入館料** 無料

博物館ニュース SHŪ No.60  
 2023年3月20日  
 編集・発行 玉川大学教育博物館  
 〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1  
 TEL 042-739-8656 FAX 042-739-8654  
[www.tamagawa.jp/campus/museum/](http://www.tamagawa.jp/campus/museum/)

『SHŪ』は、漢字で『集』とあらわします。博物館に「集」められたさまざまなものをめぐり、多くの人々の「集いの場」になるようにと願って名づけました。